

追加説明資料 (大泉緑地 整備事業)

- | | |
|------------------------|-------|
| 3. 事業の進捗の見込みの視点 | p. 2 |
| 4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点 | p. 12 |
| 5. 特記事項 | p. 13 |
| 6. 対応方針 | p. 16 |

3. 事業の進捗の見込みの視点

(旧)

- 公園全体の進捗率は、全体で81%(用地82%、工事78%)に達している。
- 事業中区域内の未買収地は、0.04haとなっており、平成29年度中の買収を予定しており、平成35年度までに工事の完了を予定している。
- 次期事業認可予定区域は、既に一部用地買収に着手しており、平成38年度の工事完了を予定している。

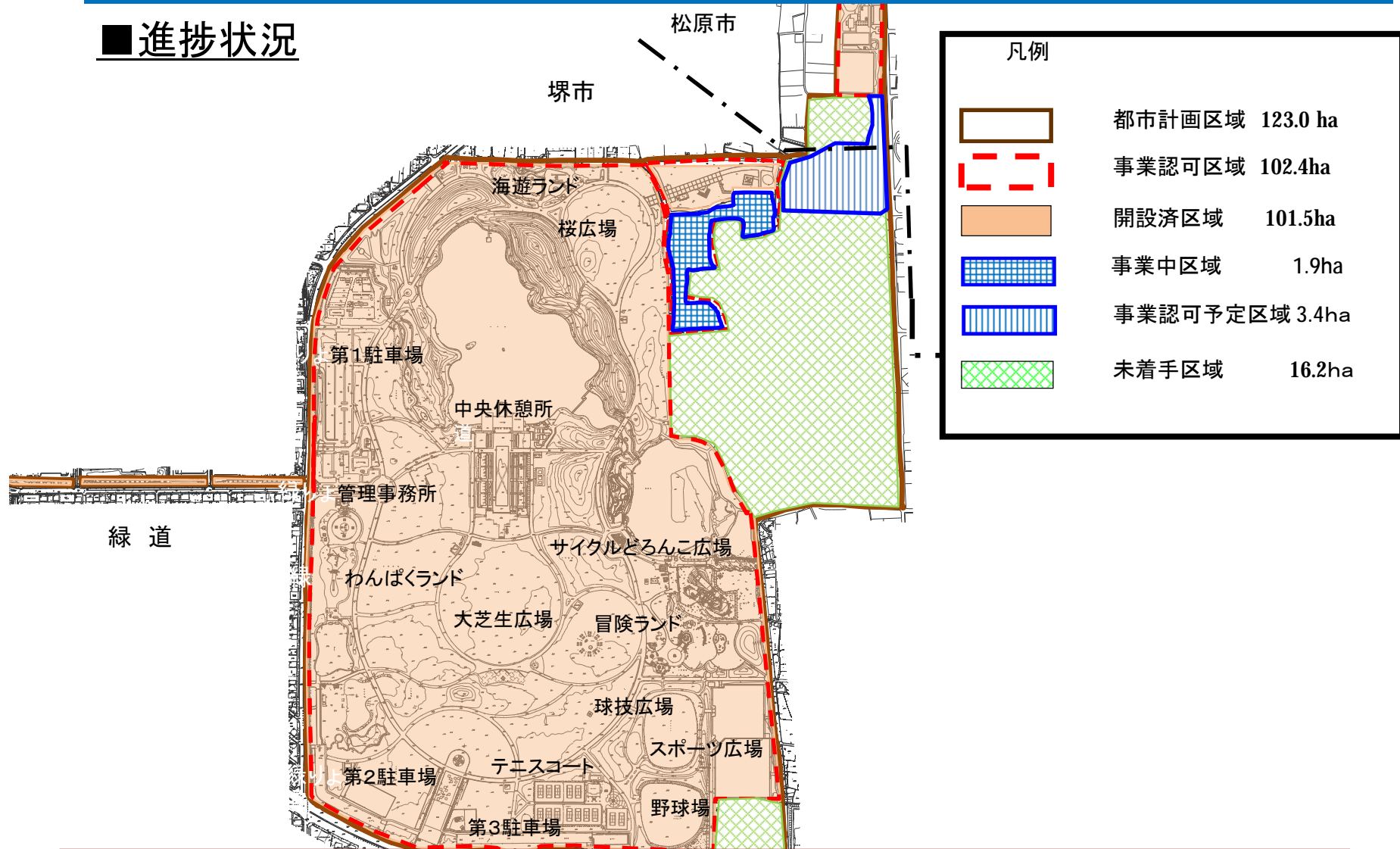


(新)

- 公園全体の進捗率は、全体で81%(用地82%、工事78%)に達している。
- 事業中区域内の未買収地は、0.04haとなっており、平成29年度中の買収を予定しており、平成35年度までに工事の完了を予定している。
- 次期事業認可予定区域は、既に一部用地買収に着手しており、平成38年度の工事完了を予定している。ただし、施設整備が完成するまでの間、現在の市道を暫定的に避難路として活用するとともに、市道周辺部分から買収、造成を行い、避難路を優先して確保できるように整備していく予定である。

3. 事業の進捗の見込みの視点

■進捗状況



大泉緑地に求められる機能は多岐に渡るものの、災害時における避難路を確保するため、松原市域との接続部から優先的に整備

3. 事業の進捗の見込みの視点

計画図

緊急時の避難行動を妨げない施設計画

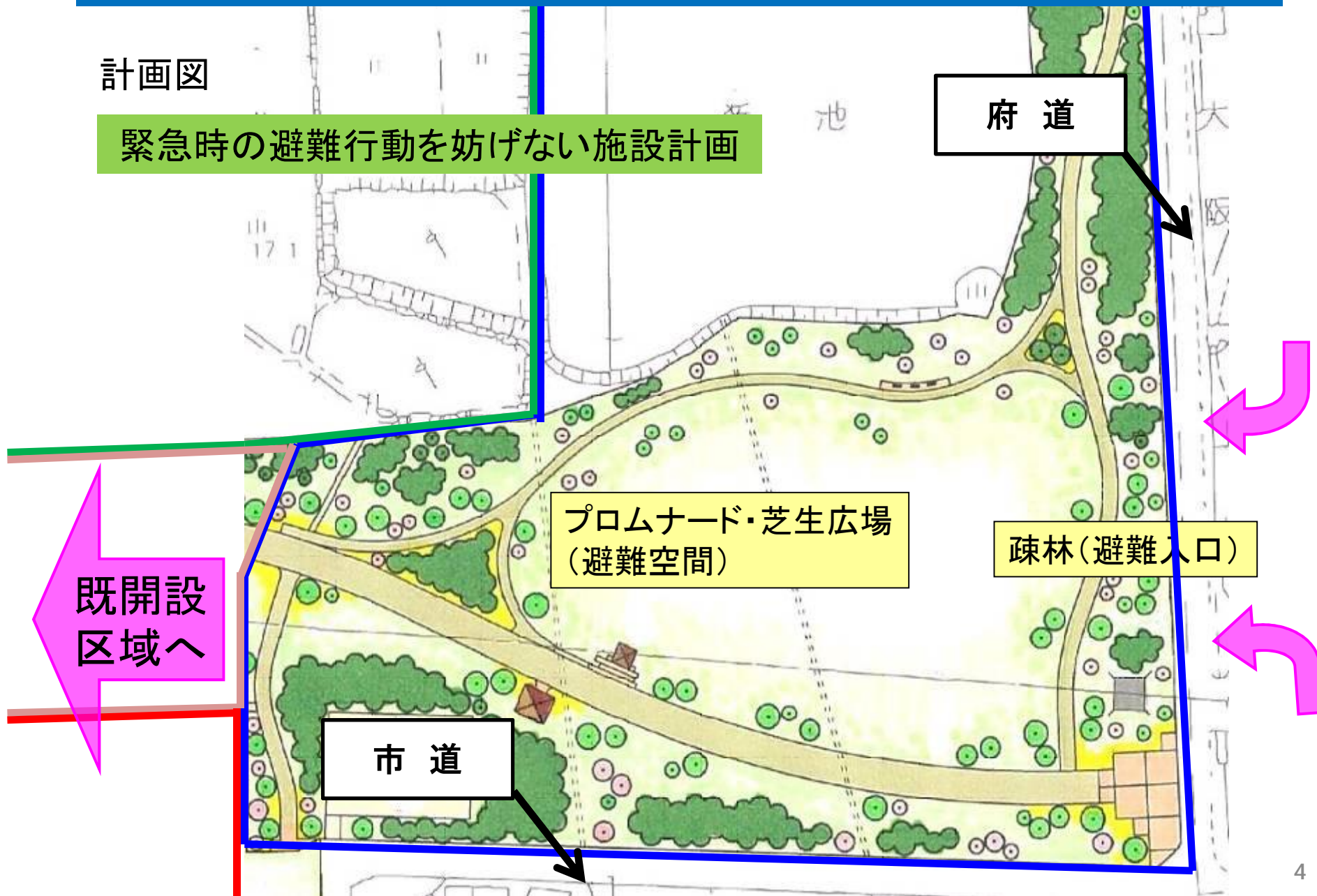
府道

プロムナード・芝生広場
(避難空間)

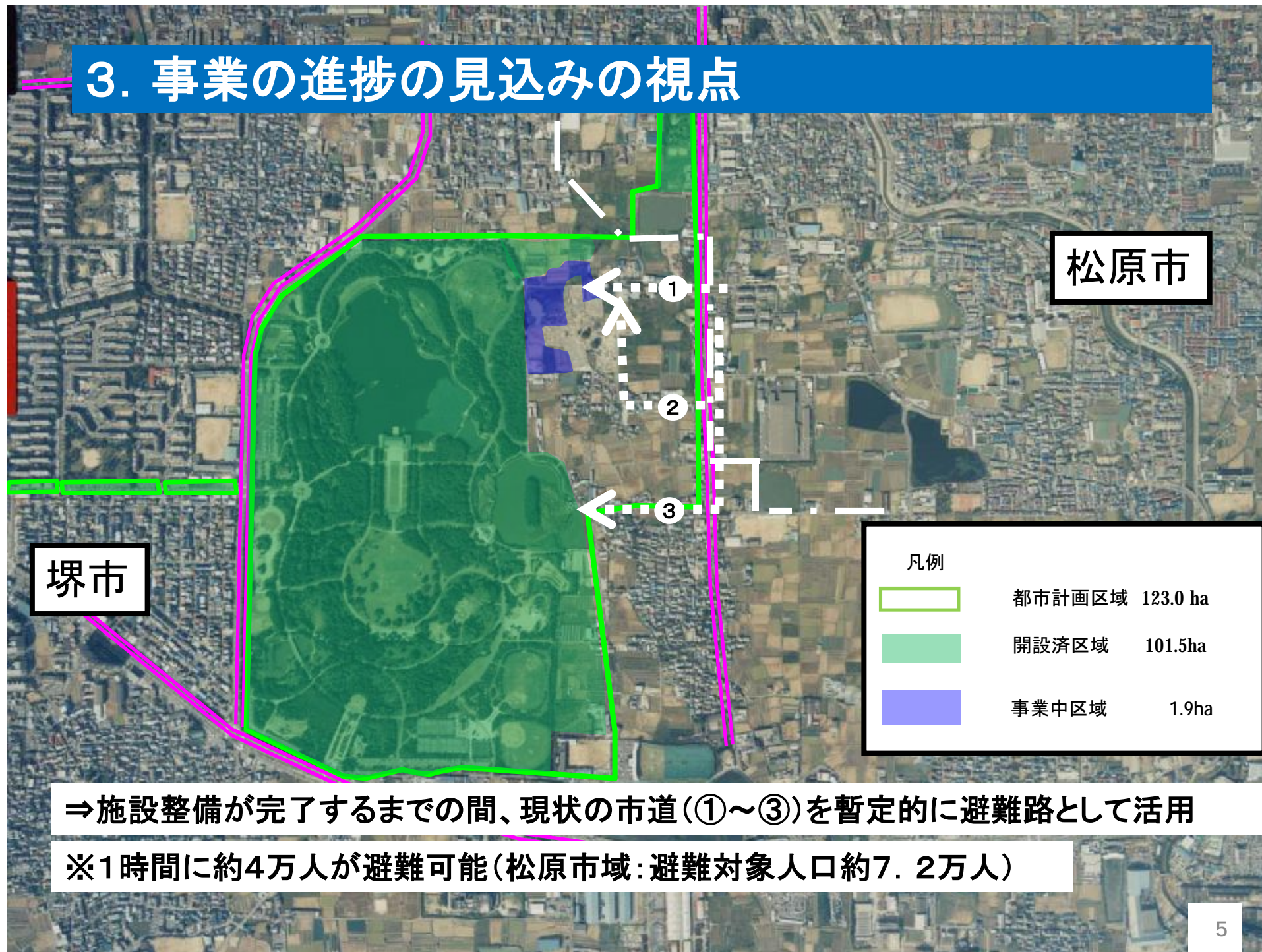
疎林(避難入口)

既開設
区域へ

市道



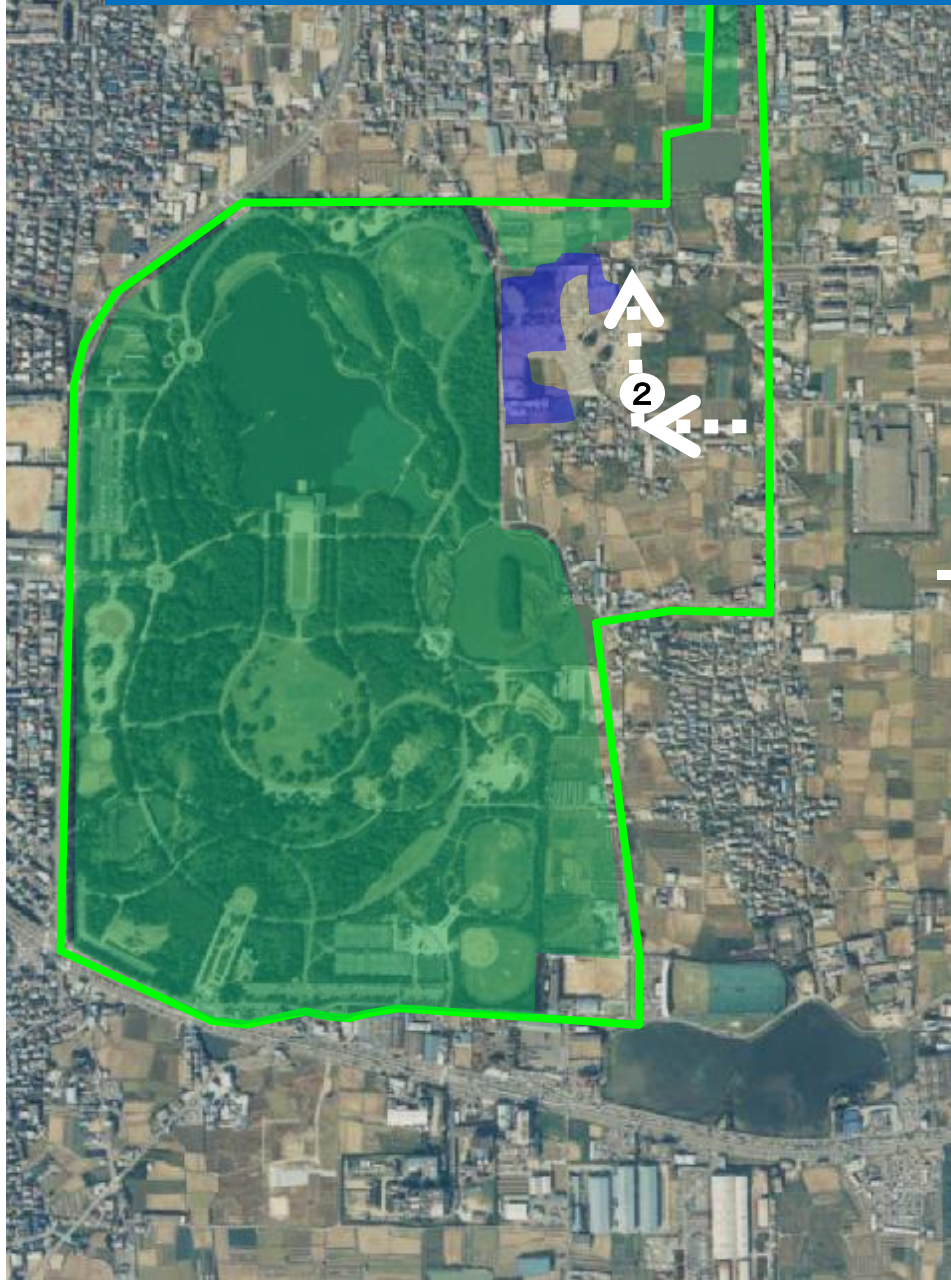
3. 事業の進捗の見込みの視点



3. 事業の進捗の見込みの視点



3. 事業の進捗の見込みの視点



3. 事業の進捗の見込みの視点

凡例



都市計画区域



開設済区域

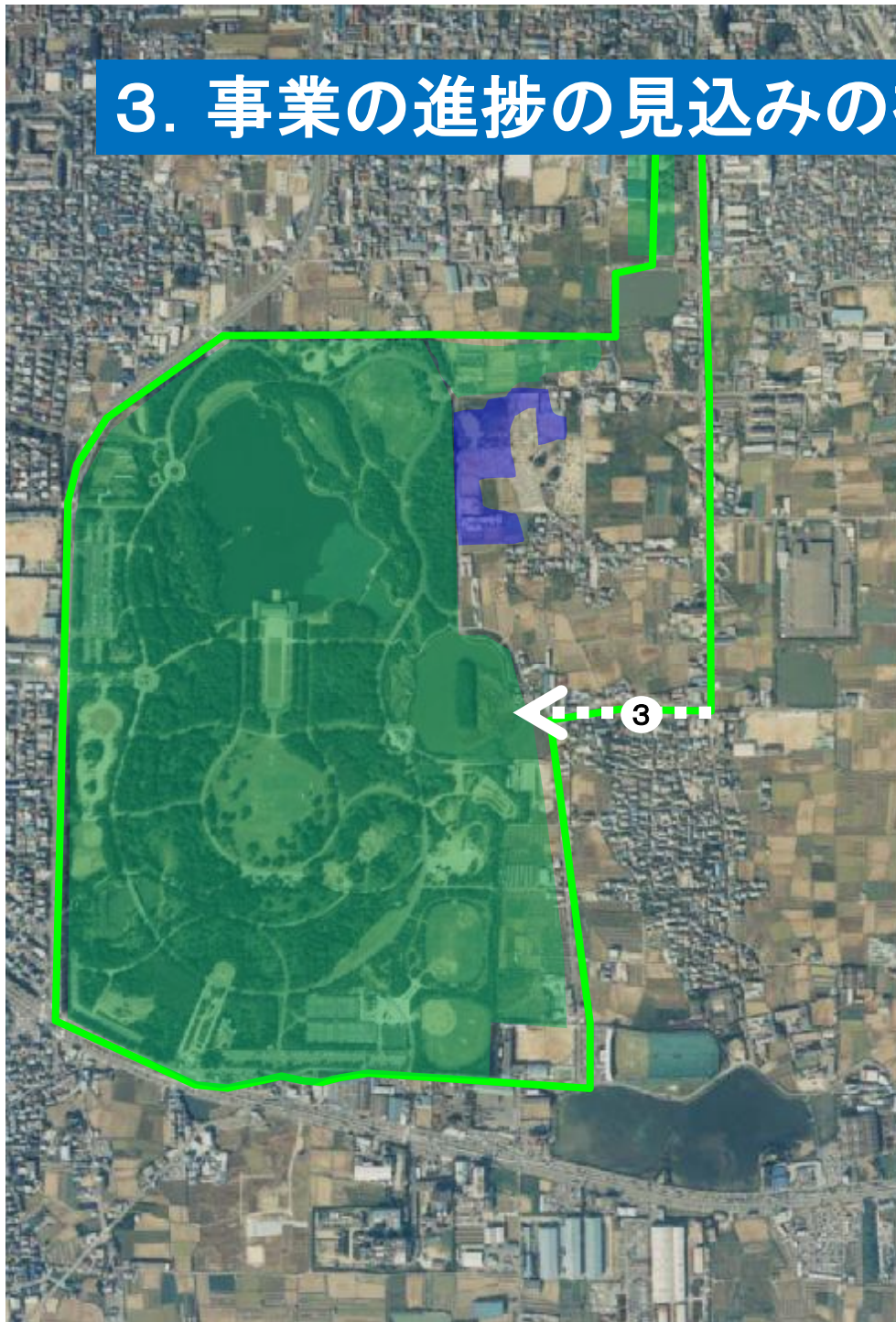


事業中区域



⇒緊急時に工事用出入口を開放することで、市道から公園へアクセスが可能

3. 事業の進捗の見込みの視点



3. 事業の進捗の見込みの視点



3. 事業の進捗の見込みの視点

凡例



都市計画区域



開設済区域



事業中区域



認可予定区域

⇒市道周辺部分から買収、造成を行い、避難路を優先して確保できるよう整備していく予定

4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

(旧)

【コスト縮減】

- 今後の整備は、「市街地に広大な森林をつくる」という基本構想に基づき、広場や樹林地などを中心とした必要最低限の施設内容となっており、コスト縮減の余地はない。

【代替案立案】

- 事業中及び事業認可予定区域については、災害時等における松原市域からの約7.2万人の避難路及び緊急車両ルートを確保する必要があるため、現在、市道が存在するものの広幅員の園路を中心とした施設計画としており、代替計画案の余地はない。



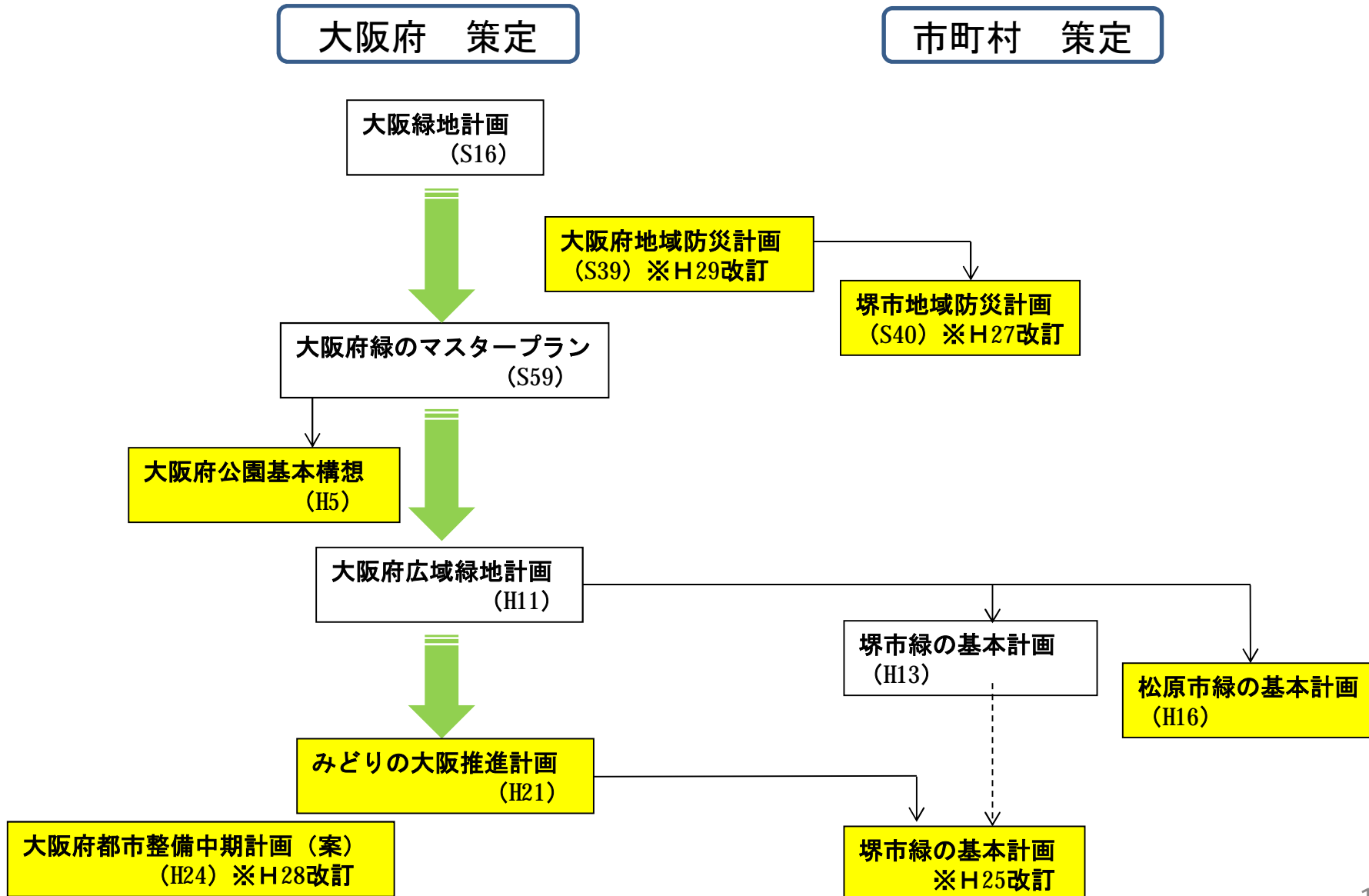
(新)

- ・ 事業中及び事業認可予定区域については、現行の基本構想に基づき、広場や樹林地などを中心とした必要最低限の整備内容としている。
- ・ なお、未着手区域については、整備効果を可能な限り早期に実現させるという観点から、今後、コスト縮減や代替案立案等を検討する予定である。

5. 特記事項

■ 上位計画・関連計画の関係

※現行の計画



5. 特記事項

(旧)

- ・未着手区域は、今後、平成23年度末に策定した「都市計画 公園・緑地（府営公園）見直しの基本方針」に基づき、必要性・代替性・実現性などを総合的に評価した上で、区域を見直していく予定である。



(新)

- ・未着手区域は、現在、平成23年度末に策定した「都市計画 公園・緑地（府営公園）見直しの基本方針」に基づき、今後の方針を見定めるために、関係者と協議中であり、必要性・代替性・実現性などを総合的に評価した上で、区域を見直していく予定である。

5. 特記事項

■その他特記事項

(参考)

H23「都市計画公園・緑地（府営公園）の見直しの基本方針（案）」に対するパブリックコメントの募集結果

- (1) 実施日 平成24年 2月21日 ~ 3月21日
- (2) 提出人数 7名
- (3) 提出意見 20件
- (4) 主な意見

【見直しの基本方針（案）について】

- ・市町村公園との連携、周辺の既存緑地の活用

【大泉緑地について】

- ・防災公園としての重要性

【その他】

- ・コスト縮減
- ・ボランティアとの協働



反映できるものは反映済み

など

6. 対応方針

■対応方針（原案）：事業継続

（旧） 〈判断の理由〉

- ・ 昨今の震災発生状況などを踏まえると、従来の公園整備の必要性に加え、都市公園における防災機能の必要性はさらに高まっている。
 - ・ 事業中及び事業認可予定区域については、整備により松原市域からの避難路・緊急車両ルートが確保されるとともに、みどりのネットワーク化を図ることができ、平成38年度の完了を予定している。
 - ・ 未着手区域については、今後、平成23年度末に策定した「都市計画 公園・緑地(府営公園)見直しの基本方針」に基づき、必要性・代替性・実現性などを総合的に評価した上で、区域を見直していく予定である。
- 以上の理由から事業を継続する。



（新）

- ・ 昨今の震災発生状況などを踏まえると、従来の公園整備の必要性に加え、都市公園における防災機能の必要性はさらに高まっている。
 - ・ 事業中及び次期事業認可予定区域については、整備により松原市域からの避難路・緊急車両の通行ルートが確保されるとともに、みどりのネットワーク化を図ることができ、平成38年度の完了を予定している。ただし、施設整備が完成するまでの間、現在の市道を暫定的に避難路として活用するとともに、市道周辺部分から買収、造成を行い、避難路を優先して確保できるよう整備していく予定である。
 - ・ 未着手区域については、現在、平成23年度末に策定した「都市計画 公園・緑地(府営公園)見直しの基本方針」に基づき、今後の方針を見定めるために、関係者と協議中であり、必要性・代替性・実現性などを総合的に評価した上で、区域を見直していく予定である。
- 以上の理由から事業を継続する。